

関東同窓会が誕生して満10年

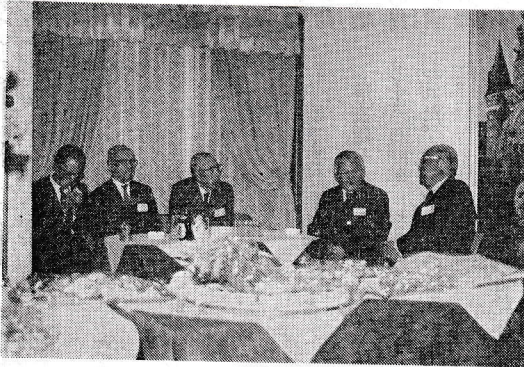
文武両道の往年の岳南健児よ

理想は高く、力を合わせて

ますますの発展を図ろう

新年会で大いに歓談する。

ビストロ ラ・ポストにて



織りなして！

ヨコ糸（同期生）を

タテ糸（先輩と後輩）と

静中・静高 関東同窓会 報

静中・静高関東同窓会
会報 第19号
昭和60年6月18日発行
編集人 月見里得知郎

その後の同窓会活動

(S 59・12 ~ S 60・5)

◆幹事会

・59年12月5日(水) 18時より

・新宿NSビル8F

・トッパンムーア会議室にて

・出席 39名

・会報18号発送の依頼

・59年度のまとめ：前年度に比し

年会費拠出の成績不良、幹事に

一層の協力を依頼する。

・60年新年顔合せ会は概ね昨年通

り開く。

・新しい名簿作製の準備

・来年度より年会費を変更する。

(9頁参照)

◆新年顔合せ

・60年1月18日(金) 18時より

・ビストロ ラ・ポスト(平河町)

・会費 五千円

・出席者38名。会長、奥野副会長

などの肝入りで懇親の実も大い

に挙り、今年も関東同窓会の発

展充実にますます力をあわせて
前進することを誓い合う。

◆有志幹事会

・60年3月20日(水) 18時より

・四副会長など10名が集まり、新

名簿作成のための下準備、分担

などを決める。

◆幹事会

・60年3月28日(木) 18時より

・トッパンムーア会議室にて

・出席 40名

・60年度総会について

・6月18日(火)築地スエヒロで。

若い人々への呼びかけを積極的

に。静岡の新名簿を参考にする

と関東在住者三千八百名、現在

より約五割増となるが、将来の

発展のため新しい関東同窓会名

簿を作る。総会への参集、会報

の送付等で結束を図る。

・会報への投稿依頼、広告応募の

お願い

・各期とも名簿の訂正(新規加入

者や異動など)確認のお願い

・次回幹事会は5月中旬予定

◆幹事会

・60年5月15日(水) 18時より

・トッパンムーア会議室にて

・出席 35名

・59年度事業及び会計報告

・60年度事業計画及び予算案

・60年度総会について

鈴 与 株 式 会 社

取締役会長 鈴 木 与 平 (44回)

清水市入船町11-1

TEL (0543) 53-3111 (大代表)

東京支社 千代田区丸の内2-3-2 郵船ビル4F

TEL 03 (284) 0551 (代)

トッパン・ムーア株式会社

取締役社長 宮 澤 次 郎 (42回)

東京都千代田区神田駿河台1-6

TEL (295) 2411 (大代表)

各 期 便 り

四五回

た皆さんの方からも、耳よりの話があったら教えて下さい。

(杉並区在住 大石清)

四七回

静高四七会

東京支部新年会のこと

この前(一月十八日)関東支部同窓会の集りで、会長の宮沢さんから(たまたま「前立腺肥大症」の経験談がご披露された。周りの人たちが内心思い当たるところありと見え、傾きながら熱心に聞き入る様子でありました。私も実はその同類、数年前から放水の勢い衰え、その上最後の歯切れ悪く、いかに切歯扼腕するもこればかりはどうにも出来ません。専門医に診て貰ったところ、案の定「肥大症」第一期ですね、近い内に第二期の免状を差し上げましょうか、と言われてガッカリした始末です。なんとかしてこれ以上の進級は願ひ下げにしたい、妙案はないものかという事で目下参考書(左記)と首っ引きで鋭意研究中です。

◎切らずに治す前立腺肥大(健友館発行) 豊沢豊雄著

宮沢会長さんの貴重な体験談も大変に有益でしたが、この本もそれに劣らず為になると考えます。敢て同門の士に推奨致します。ま

静高四七会の東京の会合は、一月十八日昨年同様新宿の松澄で行われた。総勢十七人の盛会であった。

まず亀山幹事の音頭で乾杯があり、続いて静岡より参加された秋口・向坂の両君より静岡の四七会の活動について、また会長小山君からねんごろな新年の挨拶が披露された。また恩師小沢三郎先生の御消息と科学万博もかねて、我々の来訪を期待している旨の御意向が伝えられた。

一同すでに、七十才に達している。おだやかに楽しく酒盃を傾け雑談がつづいた。

突然志田千春君より動議あり。東京四七会の安定と発展の為にファンド設定を提案したい、その基本財産とする為に同君が多年人情

の機微につき研究した学問についての参考書及び資料について、有料で頒布したいとあった。学術書及び資料のようなものは、絶版になり易いし、再版されることがあっても、二十年三十年の間隔が空き勝ちのものである。まして総て異国より取り寄せたものとあれば尚更である。

四七会の同志はことごとく好学の士であり全員が購入したき意志を表明した。止むを得ずアマダで公平にわけられた。所が貴重な研究書であるからとて、丈夫な紙袋で厳重に密封されており、途中で散逸することなき様、各人帰宅後でなければ開封は絶対にまかりならぬ、というきつい達しが志田君よりあった。ファンドマネージャーとしては、ゆくゆく五千万円位積みあげる積りではないだろうか。この日石割五郎君が初めて元気な顔を見せた。初めて出席を予想された高山君が、都合により欠席した。これは残念なことであった。年はとつても、微醺を帯びて昔の中学生に帰るのはまことに楽しい。和らいだ顔付で昔を回顧できるのは恩恵である。

また片山君より非常にお美味しい甘栗の配給があった。栗もめっぽううまいが、その袋を入れてぶ

らさげる袋が、また実に綺麗で、おめでたい花魁が、更に一面に模様がされた花でびっしりとかこまれ芸術品としか言いようがない。何となく学問と芸術の雰囲気如きものが、ただよう新年の飲み会など、中々オツではないか。またたく間に二時間半が過ぎた。

最後に恒例により杉山君の音頭で校歌が合唱された。お経の様な声も多々ある中で、リーダー杉山君の声は昔とかわらず他を圧して高く豊かであった。記して同君の健在をお伝えします。(大村三郎)

五〇回

「今年の新社員は、もむうち」に熱くなるが、強くも過ぎると破れてしまう使い捨てカイロ型」との評判が企業の人事担当者などの間でささやかれていると四月八日付の日経夕刊は報じている。偏差値一辺倒の受験競争の荒波にもまれているうちに、確かに知の面では進歩があったであろうが、心の面の鍛練の機会を逸し、「赤信号みんなで渡れば怖くない」、「社会は誰かがつくってくれるだろう」という真に意気地のない、自主独立性を喪失した若者が生れてしまった。一方今年の各企業のトップが年頭訓示で述べている中で最も

多く目につく言葉は「ハングリー精神の喚起」である。順調な現状に甘えず、今何をなすべきかという危機感を自分の中に呼びこみ、上からの指示待ちでなく、俺がやらすして誰がやるかの主人公意識こそ「ハングリー精神」そのものではないだろうか。このトップと底辺の意識の乖離こそ、現在企業が抱えている最大の悩みといえよう。これは人の教育訓練の問題であり、ベニシリン的な即効薬はなく、長期間継続して治療しないと効果はない。血肉をかけた親子でも、単純な注意や小言では駄目が出て来ないが、親の背中をみて、すぐ真似をするといわれるとおり、教育の原点は経営者や経営幹部の姿勢で決まる。教育は川の水を浄化するように、上から下が大原則であることは勿論であるが、冒頭に掲げた若者である今年の新社員に対し私が話した内容の一部から問題解決のヒントを見つけていただけたら幸いである。

川上正光先生(一九一二年栃木県生れ。東京工大・長岡技術科学大学長歴任)は社会人として大切なものとして、①健康、②人物、③独創、④奉仕、⑤⑥がなくて、⑦学業と考えていられる。古来人物養成で著名な「松下村塾」は当

時各藩にあった藩校の一つであったが、松陰は知識を体験を通じて身につけさせる方法をとった為、他の藩校が知育偏重のため名を残さなかったのに、さん然たる実績を残すことになった。自然科学は実験科学といわれるように、目の前にウムをいわせぬ原理・原則を示すことにより、人を納得させる力をもつが、精神科学の面では、人は体験(得)したものが信じない。前者は先人の残した法則の上に、自分の業績を積みあげて素晴らしい発展を遂げたが、後者は知優先の教育に倣いされて、遅々として進まず、両者の間に大きな距りを生じてしまった。このアンバランスが精神の不安定を来す根源と思われる。だから眼前の事柄に全力投球でぶつかり、さまざまな体験を積み重ねるうちに、自然に自信のある行動がとれるようになっていく。道元禪師も「身心脱落」といわれ、父母から受けた身心を忘れる程無我夢中になれば、仏から受けた魂だけの状態になり、これが悟りだといわれている。いま・ここという疑いえない事実を直面して、過去への愚痴や、未来への願望や、他への依存を断って己れを見つめよと説かれる。

高校野球県大会に優勝するには

妙手奇手はなく、日頃の猛練習しかないことは自明の理であろう。失敗の原因を外部の条件のせいにしては同じ失敗を繰返すだけだ。失敗の原因をすべて自分でうけとめ、環境さえも自分の心構えで変えうるのだという積極的な考えに変身するとき、道は自ら開けるものだ。自己暗示かもしれないが、弱気の自分に打ちかってこそ充実した人生が出現し、これが企業内の仕事へも好結果を招来するものだ。結果を気にせずプロセスを大切にする姿勢も一脈相通するものを感じる次第である。

多くの方々の御批判を頂きたい。
(永田 蘊)

五一回

クラス会報告

私達のクラス会は「五一会」と呼びならわしております。最近二年二回、春は東京、秋は静岡で開きます。去る四月二十七日(土)通算第三十回をいつもの有楽町「一松」で六時から始めました。出席予定者が二三名でしたが、その後の都合で当夜は結局一七名集まりました。静岡からは、遠田毅君、正野良市君、牧野三郎君の三名でした。過去一年間の概要をそれぞれ東京、静岡の幹事から、また当

日までの中間会計報告を会計幹事から説明を行いました。そのあとは三々五々懇談に入り、各グループは再々メンバーが交代しつつ九時過ぎまで終始なごやかな話題が尽きませんでした。静岡からの前述の三名を含み出席者を列記します。

飯田鉄雄、伊藤濱吉、煤田長、遠田毅、大富部国男、河瀬士郎、下山富太郎、高橋達郎、玉越俊一、永井五一郎、林盛次、正野良市、藤根次郎、牧野三郎、森弘、寺尾利男、佐伯正剛(以上一七名)

(佐伯 正剛)

五二回

我々五十二期は、昭和十二年の卒業です。思い起せば二・二六事件勃発の年です。この日は暖国静岡にも珍しく雪が降り、積雪を見た事件の重大さを象徴した日でありました。この事件が軍靴の響へ通ずる警鐘とは露知らず、卒業前ののんびりした時を過しておりました。然しこの事件を契機として軍支配の方向へ向い、支那事変、大東亜戦争へと進み、我々は戦争へと駆り出され、あたら青春を空しく過し、若き生命をつみとられた友もあり、更に追い打ちをかける様に敗戦という惨を味わわれ、

気がついた時には中年になってしまった次第です。然し現在生き残りの我々は、このきびしい世の中を無事見事に乗り切った悪運強い強者等ばかりです。

六十二年は卒業五十周年を迎えるわけで、盛大に同期会をやるうとよりより協議中ですが、悪運強い同志もよる年波には勝てず、六十二年までもつかどうかと不安も感ずるせいか、甚だ弱気に六十年より五十周年同期会を連続やるうではないかと言う意見に傾いております。

東京在住五十二期会も、昨年十二月五日西銀座アマンテにて開催致しました。当日は今井健三、新美弘、曾根信一、直原澄衛、苅米地一樓、田中貞司、遠藤廉、岩本良雄、川島喜八郎、相島秀雄、大草知久、茂呂茂樹、佐藤昌武、広川聡、服部雅雄の面々計十五名の出席をみました。昨年頃より我々の同期会も第一の人生を終え、第二の人生もぼつぼつ終える人が多くなり、年と共に人恋しさ昔恋しさを覚えるのか出席率は大変良い様です。

東京在住同期会の面々も、五十周年は六十年より連続やるうと決議した次第です。当日は皆一年ぶりの同期会にて、話しがはずみ時のたつのも忘れ、時間まで一同昔にかえり語り合った次第です。最後は、お定まりの「岳南健児一千の」校歌を声高らかに歌い、又来年はお互い元氣な姿にての再会を約し解散した次第です。

尚、葛沢雪雄兄は一線の仕事を目度く終え、和歌山の自宅へ戻り悠々の生活に戻られました。又代りに未だ一線で大活躍の田中貞司兄が東京勤務となり、東京在住同期会の強力な一員として御協力を頂く事になりました事報告致します。

六十年同期会の幹事として遠藤廉、大草知久両君にお世話頂く事になりました。今回欠席の五十二期の皆様、次回には全員出席を頂き、盛大な第一回五十周年をと幹事の遠藤・大草両君腕を撫でておりますので皆で、我等の会を盛りあげようではありませんか……

(服部 雅雄)

五三回

橋中佐銅像後日談

千々石湾(橋湾)を眼下に見下した姿勢で橋神社境内に建立された軍神橋中佐の銅像について、会報十七号で御報告しましたが、このたび、終戦時に名古屋幼年学校に在学しておられた六四回生の仲

野実氏から、関連する参考事項の御教示を頂きましたので紹介いたします。

御承知のとおり、橋中佐が首山堡で戦死（明治三十七年八月三十一日）された時の任地は第三十四聯隊（静岡）であり、第三師団（名古屋）の隷下にありました。そのため、橋中佐は名古屋幼年学校で軍神として祭られておりました。

この関連で、名古屋幼年学校の同窓会誌「たちばな」の中に、橋中佐の銅像についての記事が記載されていたので、そのコピーを送付して頂きました。その内容のうち、関連の深い部分の要約は、次のとおりであります。

(1) 銅像は大正八年に二体製作された。（製作者は西村西望氏）
(2) 一体は、橋中佐の出生地に、千々石湾を見下して建立された。私が旅行中に一つつしたものは、この銅像であったことになりました。

(3) 一体は、名古屋幼年学校に建立されたが、のちに東京市ヶ谷の陸軍士官学校（現陸上自衛隊東部方面総監部）に移設され、さらに昭和二年に第三十四聯隊に移された。しかし、大東亜戦末期の金属回収の一環として供出させられ、戦後は消息不明となっていた。

(4) その後、陸上自衛隊発足後、

南富士板妻にある普通科連隊（旧軍の歩兵聯隊）が第三十四連隊と番号づけられるにあたり、旧第三十四聯隊時代の銅像を復元して、同連隊内で富士山を仰いで建立されることになった。（昭和五十二年）

一体の銅像は千々石湾を見下し、一体は富士山を仰いで建立され、それぞれ安住の地を得たわけである。

(5) 以上の経緯から判断すると、小生の旅行中にバス車掌が橋神社にある銅像は戦後に建立されたものであると説明したのは、車掌の思い違いと推測されます。昭和五十六年に名古屋幼年学校卒業生が橋中佐の碑を寄進しているの、記憶が混乱していたのではないかと推測されます。

末筆ながら、有益な御教示を頂きました仲野氏に謝意を表します。また、数氏から電話などで参考になる事項の御連絡を頂いたことを付記します。

——五三回生の消息——

静岡静高同窓生名簿から、左記4名の方々の関東在住が判明しましたので御報告します。

沖多三郎君 埼玉県入間郡越生

町七八四

片岡 良君 厚木市温水五五一

五八

田熊博文君 浦和市東仲町二七

一七

宮沢四郎君 埼玉県入間市小谷

田一三三三

従って、関東在住者は、計43名となりました。（従来は39名）

また月見里得知郎君は、住所表示が変り、川崎市菅北浦二一五一二〇になりました。（徳永 悠久）

五五回

静岡の山々

昭和三四年に十二年間勤めた静岡県庁から東京に転任し、横浜に居を定めてから既に二五年経過した。何か書いてくれと相川君から頼まれて静岡中学時代を思い浮べて見ると、家が浅間山に近かった事もあり、中学を取巻く浅間山を始め竜爪、富士山が浮んでくる。浅間山は家の庭のようなもので、暇があればよく登ったものだ。静高に入ってから、家から浅間山經由で屢々登校したものである。

毎年秋の運動会の最後を飾るものは浅間山の登山競争であり、全種目の中での華であったと思う。母校で教鞭をとられた湯沢君は誠に強心臓でトップクラスであった。山の中腹より頂上まで白い点が並び、一斉に動いているが、暫くす

ると登り下りが交錯する。一番の入場者は、マラソンランナー宜しく、歓呼につつまれてトラックを一周するのであったが、賞品も良かったと思うが、その晴れがましい姿には羨望の眼をそそいだものである。

級友の中には山好きが何人か居た。竜爪は学校でも集団で、学年別にコースを分けて登山したこと

もあった。竜爪の頂上は静岡市に属し標高千四〇米で、当時市の行政区域内に千米以上の山のあるのは静岡市のみであったと記憶している。兄が一橋の山岳部にいた関係もあって、安倍川沿いの山は殆ど登った。真富士、十枚、八絃嶺と、特に八絃嶺は梅ヶ島温泉から登るのであるが、温泉まで静岡市から約二五軒、往復自転車登山は頗るきついものであった。四年の時の春休みであった。確か、戸塚、三竹、増田の三君であったと思うが、小生をまじえて春先の大井川す又峽を井川より下って見ようと計画を立てた。浅間山の桜は既に咲き始めていたので、ゴム底の運動靴で出かけたものの、上助から井川に抜ける大日峠では雪が五寸以上もあり、滑るやら冷いや

ら先が心細かったものの、す又峽の素晴らしい景観を見ることが出来た。何回となく山に登り、谷を下り、吊橋を渡り、当時の重いテントであったため重量もあり、仲間つらい旅行であった。皆大分くたびれた恰好で三日目の夕方千頭にたどりついた。確か松岡の家がある筈だと、町に入って尋ねて見ると、村の名家で直ぐに分った。その晩の食事のうまかったことと、泥のようには皆眠った事を覚えていた。

誠に面白かったのは、松岡君が学校内で話す通常のイントネーションの会話が出来なく、川根なまり丸出して話したことであった。素朴で人好きのする誠にいい奴であったが、彼も又戦死してもう遠い昔にこの世を去ってしまった。目を閉じると、金子、見崎、……と戦死した友人の面影が浮び上ってくる。

一昨年の夏、私の兄（五〇回）も北海道の日高の山中で遭難死した。山の経験四〇年のベテランであったが、疲労と寒さと思われるが、惜しい事であった。兄が山好きとなったのは多分に静岡が山の環境に恵まれていた事にあつたと思う。遭難の報が入った時、私も現地に急行して山に入った。北海道山岳会で兄が知り合った現役、OBの方々が救助隊に加って捜索

してくれた。葬儀も雪山讃歌で見送ってくれたが、涙流るる思いであった。

静岡の町並も高い建物が建ち、大分変ってしまったが、ひとたび目を遠くに転ずれば竜爪、真富士、富士山と、変らぬものが厳然とある。小生も還暦を迎えた。元気のうちに暫く遠のいていた静岡の山々を兄貴の写真でも持って、中学時代を偲び登って見たいと思っている。同期の方々の健康を特に祈って止まない。

(木村康宏 旧姓大塚)

五六回

静中第五十六期

関東同窓会開催

第五十六期関東同窓会メンバーは、毎年一回、有志が都内に参集して、ささやかな集りを持っておりましたが、昨年は担当幹事の怠慢で年内参集が流れました。遅ればせながら、去る四月二十四日、銀座バルハラデンで懇親会が開かれ、十五名が参集し、楽しい宵を過ごす事ができました。同期生の中の代議士原田昇左右君もスケジュールのやり繰りをしてわざわざ駆けつけてくれる等ハブニングもあり、盛会のうちに九時三十分散会となりました。其の後三々五々銀



写真は関東五十六期同期会 60年4月24日

座のネオンの中に消えて行く次第もあり、年にめげず中には午前様のグルーブもあったとやら、きわめて有意義な会であったと自画自賛して居ります。以上報告迄。

五十六期六十年度グーダラ幹事

(杉原 泰二・萩原 達雄)

五七回

気軽に、負担も少なく、会場のムードも上々という同期の集まり

を持ちたい。こんな三拍子揃った関東地区の同期会が、月見里君の努力で実現した。しかも一昨年七月からである。報告がかくも遅れたのは、私の怠慢であり、月見里君にも、同期の友人にも、まことに申し訳ない。

この同期会の会場は、凸版印刷の本社喫茶室で、十四、五名の会合には恰好の広さである。場所は秋葉原駅近で足の便も良い。

その上、美人のお嬢さんが給仕をしてくれる。ムードが上々といったゆえんである。そして会費は驚くほど安い。

この同期会は七回開いた。

五十八年七月十二日 十二名

九月七日 十四名

十一月七日 十四名

五十九年二月七日 十四名

八月七日 十二名

十一月七日 十名

六十年二月七日 十七名

今後、八月、十一月、二月の

七日に開催する予定である。五月

は静岡で同期会が持たれるので、

関東地区は休みとする。なお、月

見里君に甘えるばかりでは申し訳

ないので、八月は、一組から順番

に幹事を立て、趣好を別にして、

行うことにする。本年八月は、従

って、一組の岩井君と堀江君にお

願いすることになっている。

次にこれまでの参加者を列記す

る。

天野喜久雄 池谷 英雄

岩井平一郎 岩柳 順二

岡田 淳巳 長田 栄

影島 利邦 北村 栄一

北村 正 久保田誠三

小坂志麻夫 後藤 利彦

坂田 秀雄 酒井 博

島根 光明 杉山 正友

田中 勇 高橋 礼久
富田 澄 鳥居 義彦
広野 暢之 藤巻 重男
堀江 隼人 牧 知巳
月見里礼次郎 米沢 正次
昨年十一月の会合では、後藤君がヒョーンなことから、NHK取材班と知り合いになり、定年後の人生というテーマで、カメラを持ち込んでインタビューが行われた。残念ながら、放映にはならなかったが、楽しい思い出となった。

(影島 利邦)

五九回

昨年の十一月半ばから自動車教習所に通い、今年の一月末、免許を取得した。

大学時代のゴルフ友達が、帰りの車の中で、「これから子供がいなくなつて、夫婦二人きりになると車で出掛けるのが楽しみになるよ」という。

朝日新聞社に三十一年勤務して昭和五十七年に定年になったが、朝日では、車は伝票一枚でどこへでも行ける。だから自分で運転する必要はなかった。それに入社した頃は車は運転手つきで乗るものだと思っていたから、何回か取得する機会があったが、危険な思いをして自分で運転する気にはなれ

なかった。

「しかし、車は交通事故の危険があるのではないか」というと、

「いや、安全なものだよ。それに事故を起こすのは若い人で、年を取ればムリはしないから事故は少いよ」という。

朝早く教習所に出掛けること、

教習所の教官は乱暴なことをするという風評など抵抗はあったが、一念発起。朝日の運輸部に校長先生や、指導部長を紹介して貰って通ってみると、女子学生やOL等若い女の子が圧倒的に多い。聞いてみると、アルバイトをして授業料を払う子が標準的だ。

小生、朝日新聞社の関連会社の社長をしているので、時間の方は割り合いに融通が利く。毎日熱心に通うことになったが、教官は、校長の紹介者であり、年も六十才近いのか、遠慮してお客さん扱いである。

こちらは教わりに通っているのだから、悪いところはもう少しきびしく叱ってくれないと一向に身に沁みない。ゴーカートで遊んでいるようなものだ。教官の方は、さわらぬ神に祟りなしと思っているのか、当りさわりのない教え方をして、そのかわり進級はさせてくれない。若い女の子はほとんど

進んで行くのにこちらは渋滞である。

昔は運動神経はすぐれた方だと思っていたが、情なくなるほど鈍っているのもよく分る。

同病相憐憫で、成績の悪い子に小生の進級表をみせると安心して元氣を出す。なぐさめ役のようなものだ。

それでも、仮免、本免と何回かやり直して、とうとう合格した。

この程度の腕前で、よく合格させるものだというのが実感で、これでは交通事故が起るのも当然ではないかとさえ思った。

しかし、とにかく慣れなければ当初の目的を達成できないから、つとめて乗ることにした。

「若葉マーク」がこんなに有効だとは思わなかった。葵の紋章ではないが、これをつけていると、まわりの車は遠慮してくれるし、親切だ。もっとも、人の運転をみていて、こんな車に近づいたら自分の方が危いと思っているのかも知れない。

エンジンを起したり、登り坂で発進できなくなったり、さんざん苦労しているが、それでも、銀座の下真中、首都高速、中央、東北自動車道、京葉道路等々、休みの度に乗りまわしている。

車は五年前に息子のために買った三菱のラムダでいかにも若者向きだが、若葉マークのうちに十分乗って、来年からは、いよいよ愛妻？を乗せて遠征をするという大いなる希望を抱いている。

(青山 勇)

六〇回

渡辺清夫君を偲ぶ

リコーシステム開発部の社長渡辺清夫君の訃報を上杉重吉君から電話で受けたのは、年明け間もない一月八日だったように思う。未だ五十代という若さで逝ってしまった。これでは何としても早すぎる。自らの新しい会社を更に充実すべく、大いに意欲を燃していたであろうこの時期に、病魔に冒されたのはさぞ無念であつたらうと思う。

私が彼と顔を合わせるようになったのは、海軍兵学校七十六期の集りである。当時リコー側に勤めていた彼は、ソニーの中央研究所にいた私を大いに買いかぶってくれて、部下の人達のために一度話に来てくれと頼んだりしてきた。あるいは、書き上げた論文を送ってくれて、私のコメントを求めたりしたこと。一昨年六月の関東同窓会で顔を合わせた時に、

新しい名刺をさし出して、「今度こういう会社を始めたのでよろしく。一度訪ねて欲しい」と言った彼の希望に満ちた顔は忘れられない。この時彼が単なる学究の徒ではなく、経営の才能も持ち合わせていたのかと、ある種の羨望の念を感じたのを覚えている。

私は、海兵同期として知り合ったが、うかつにも彼が静中の同期であることをとんと思い出さないでいた。静中静高関東同窓会に出席して名簿を見てあつと驚いたのである。思い出す度に忸怩たるものを感じる。彼は60回の幹事としてもよく世話をしてくれた。

ともあれ、こうしてお互いに知り合うようになってからは、短い期間ではあったが、会えば互いに話が尽きない間柄であつた。

一月十日、国立にある大無量寺での葬儀に、上杉君と共に参列した。そこでも、何でこんなに早く逝ってしまったのだという思いが募るのを禁じ得なかった。ただしかし、立派に成人されたお子さんがおられることに、せめてもの慰めを感じなければならぬのかも知れない。

奥様始めご家族の皆様は、立派に彼のなき後を守ってゆかれることは疑いはいないし、彼の会社もソ

フトウェアの時代にマッチして成長発展することは間違いないと思ふ。

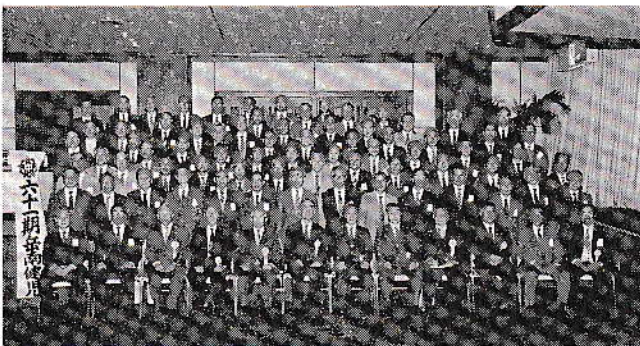
渡辺君、安らかに眠れ。

(満間 猛)

六一回

卒業四十周年を迎えて

私達静岡中学校六十一回生は、日本の運命をかえた大東亜戦争が始まった昭和十六年に入学、終戦の年、二十年の三月に四年で繰上げ卒業、しかもこの間戦争の推移



につれて、勤労作業、工場への動員などがあり、四年の二期期からは全く学校を離れ、空襲や食糧不足の中で発動機生産に従事しながら自学習したという「珍らしい」経歴をもつ学年である。

戦争色を反映して、学年が進むにつれて予科練をはじめ各種軍関係の学校等へ途中から出て行く者が多くなり、又一般の上級学校も受入態勢が不明確であった為、卒業後も同級生の進路の動向がつかめず、更に戦後の混乱の中で生死さえも判明しなかった一時期もあった。

この中で同級生有志の呼びかけで、昭和二十七年に「同期の集い」が静岡市内田中屋デパートの食堂でもたれ(会費二百五十円也)、七十数名が参集したのを第一回とし、以後、年一回の開催をきめ(そのうちに四月第二土曜日が例会日となった)、集まってくる人数の消長はあったが、毎年選任される幹事の工夫と努力により現在まで続いてきた。

今年は卒業以来四十年になるので、かねてよりの懸案だった慰霊祭を含めて記念行事を実施することになり、実行委員会を設定して募金から作業を始め、百四十人の期友から四百万円を越す喜捨を得

た。

四月十三日午後四時、母校同窓会館前で、勝又、金子、北川、杉山、三浦、八十島の懐しい諸先生方をはじめ、鈴木同窓会長、鈴木静高校長のご臨席のもと望月俊君の司会で記念式が挙行された。福地益人君による六十一回生の特徴を浮彫にした挨拶、記念植樹として四十年の樹令をもつ「モチ」の木の新入、記念碑の除幕、母校への記念品代の贈呈、米賓の挨拶と式が進められた。又この会に先輩の原田代議士や、藤田議員もかけつけて頂き、約七十名の期友の参加で大いに盛り上った。

最後に全員で校歌を歌って物故者への饗けとし、浦田校男君の結びのことで慰霊祭を終了した。なおこの両行事は、テレビ放映され新聞にも掲載された。

移動、静岡駅などから直接来場した友人も合流して、日本平山頂の日本平ホテルで総会、懇親会。諏訪先生、村松先生もここからご参加頂き、広いコンベンションホールを八十余人で埋め、玉井滋君の司会で進行された。設営や人員の確認などで苦労した総会幹事を代表して森賢正君の挨拶、加藤常任幹事による経過報告の後、恩師を代表して諏訪先生、八十島先生からユーモアあふれるお言葉を頂いた後、遠距離初参加という事で指名された山田千里君の乾杯で宴が始まった。初参加の高山秀男君、相馬孝君等を囲む輪が出来、手許に配られた「同期会のあゆみ」を広げて過去の会での思い出を語り、先生方へ酒を強いてかつての鬱憤を晴らし、昔の点数をバラされて頭をかき、物故者の写真から若い日のいたづらを思い出し、尽きぬ思いの二時間がまたたく間に過ぎた。

卒業40周年記念植樹

最後に校歌を四番まできちんと歌い、八木弘心君の言葉で会をしめ来年の再会を約して散会。校章入りの記念品を抱えてバスで静岡駅へ、そして二次会へと散って行った。

二十数名の宿泊者は金子先生を囲み、静岡、清水の夜景を見ながら、

な話は深更に及び、翌朝も晴れた芝生の上で宴を続け名残りを惜しんだ。

卒業以来四十年、二十七名の物故者を出したが、現在連絡のつく期友は二百十名余り。今後も毎年顔合せを続け、これから一層欲しくなってくる友情の絆を強めていきたいと思っている。

(大石 次男)

六七回

我が闘病

突然、梶原君から電話があり原稿の依頼があった。これまで同期の連中から海外経験が豊富だからと、再三投稿を勧められたが、やれ忙しいの病気だからと逃げ廻ってきた。今回は「否」というタイミングを失ってしまった。さて、その海外経験であるが、主なものは次の三件になる。即、

①41年・サイゴン(現ホーチミン市)・南ベトナム・紙工場建設・単身一年間。

②50・52年・マダン・パプアニューギニア・木材チップ工場操業・家族同伴二年間。

③53年・モスタガナム・アルジェリア・現地調査・出張一カ月。

になるが、ご覧のように旧い話や紙パルプの仕事のことで、格好良

く言えば資源最前線、悪く言えば文化果つる所のお話。むしろ人類学者や生物学者の範ちゅうで、どうみても一般向けではない。それよりも57年夏に胃潰瘍の手術をしたので、この方がと、ヒットラーの「我が闘争」ならぬ「我が闘病」の経緯を一筆ということにした。忘れもしない52年正月、ニューヨークから寒い東京に帰国した。真黒に日焼けし瘦身、銀座を歩いているとよく外人に話しかけられた、東南アジア人と間違えられたようだ。海外帰国者の関所とでも言うべきか。体の不調・新しい仕事・子供の教育・住宅など、諸問題も峠を越し、54年末にはホクシ一株式会社(更生会社・家庭紙・資本金四億円)へ出向になった。当時タバコも止め体重は70KG近く、首廻りは毎年1cmアップの正に中年太りそのものであった。ホクシーの再建も何とか見通しがついてきた57年5月、集団検診で胃の上部に広い潰瘍が見つかり「この食欲と体重で何が胃潰瘍だ」と勝手に決めて、このままでは胃穿孔になると10年前の十二指腸潰瘍跡もあり、とうとう57年夏胃全摘の手術を受けた。食道と十二指腸とは腔腸をもってきて継いであるからだ。

執刀した先生の語録を二つほど。勿論患者の私を励まして……①胃の人工臓器は開発されません。これほど豊かな食物に恵まれた日本人、生長も止る40才以上になれば胃は不要です。むしろ弊害すらあります。②私の担当した患者のほとんどが早喰いです。ゆっくりと食事をする習慣や性格の人は胃潰瘍になりません。退院して改めて周囲を見渡すと「なるほど」と思うことが多い。我々の世代も、もう残りの方が少い。一度ぐらい先生の言うことを聴き模範患者になり、ご飯ぐらいゆっくりと決心しても、当初はゆっくりと食べるほど量が摂れない。食べられるようになってからも、家族から再三注意される有様で、昼食などもウサギ小屋の住人よろしく時間や約束に追われて、せかせかしている自分を見つけて苦笑している今日この頃である。胃潰瘍の原因は解明されていない。私の場合は「過度の飲酒+ストレス+早飯」という方程式になるのか?入院中は輸血による肝臓も経験しその後遺症もあるが、悩みであったコレステロールは半減して正常値、体重・血圧は下り過ぎて困っている。工学的発

想をすれば、体重・血圧をコントロールするため胃腸を切除するのは効果的と思うが、人間は生身であり切れば痛い後遺症も出る。よくこの頃、一病息災などと言うがとんでもない。病気がなしで一生を過せる人は、いかに幸福なところかしみじみ思う。「沢山食べなければ、少しづつ長く」と外国の諺にもあるが、飲むことも全く同じで、中年過ぎたら暴飲は慎しむように、ドクターからではなく一人の失敗者としてご忠告申し上げる。

副社長の職にあつての入院三カ月、退院直後は体力気力とも衰える。本州製紙に帰って窓際族かなどと考えていたが、時の流れは偉大な医者とか、体も徐々にであるが回復してきた。59年8月本州製紙はホクシーの株式のシェアを増やし過半数を占めたので、今度は誰か先輩が来られ采配を揮うものと期待していたところ、突然社長の重任を仰せつかり本人が一番びっくり。殺人的スケジュールの各所挨拶廻りに海外出張も加わり、年を越しやや落着き今日に至っている。

家庭紙の業界は、慢性的設備過剩のため市況が常に不安定であるが、幸運にもホクシーの更生計画はほぼ順調に推移し、債務の弁済も略半分が終了した。まだ二次会の付合いや激しい運動はドクター・ストップであるが、気の合う優秀なスタッフに取囲まれ、本州製紙からも先輩達が見守ってくれている中で、何とかホクシー丸を運航している。

最後に、本社は赤坂の米国大使館の通用門隣の第三興和ビル二階にある。お近くにお出掛けの折はぜひお立ち寄り下さるようには「追記」この雑文の中で、あえてデータを記入しないように留意した。と言うのは、私の病も一つの症例にすぎず、よそ様の参考にならないと考えたからだ。病氣と言えば、私の同期にも有名なドクター小坂が居る。ご存知の熱函病院の院長さんだ。私も小坂の処とも考えたが、幼い頃から家も近くで育ち、親しすぎて自分の欠陥を総てさらけ出す勇気がなかったのかも知れない。

六八回

(加藤 友行)

歯周病

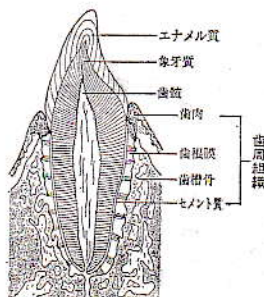
歯肉炎と歯槽膿漏は、歯そのものの病気ではなく、歯のまわりの歯周組織というところから起る

る病気です。その区別は、歯肉炎は歯周組織の一部歯肉のところに炎症が起る場合で、歯槽膿漏は歯周組織全体に炎症がわたる場合をいいます。

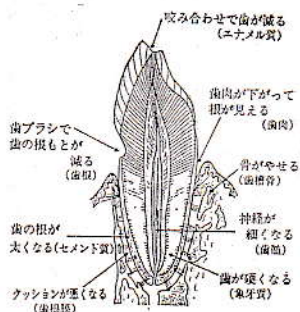
〔歯肉炎〕

歯肉炎は口のなかの清掃が悪く歯垢歯石が原因で起こるもので、歯肉が健康色のピンクからやや赤くなります。症状が進むと、青赤色で、歯ブラシなどでこすったりまたリングをかじったりすると出血します。炎症は歯肉に限局していて歯周組織に波及していない場合をいいます。

若い人の歯



年をとった人の歯



しかし、この歯肉炎をそのまま放置すると歯槽膿漏に移行することが多いので、この段階で治すことが大切です。

歯槽膿漏とは歯肉の炎症が他の歯周組織にまで広がった状態のことをいいます。歯肉の色は歯肉炎のときの赤色から紫色に変わってきます。歯の周りにはポケットができています。このなかには歯根についていた歯垢や歯石、それに、細菌のかたまりがみられます。指で押すと黄白色のネバネバしたものがでてきます。これは細菌のかたまりで(膿汁)炎症のもとになります。この状態が長くつづいていくと、その影響で歯を支えている歯槽骨は次第に溶けていきます。そうしますと、歯の根が前よりもよけいに新しいところが現われてきます。最後のほうになると、歯も歯肉も殆どなくなってしまうのです。

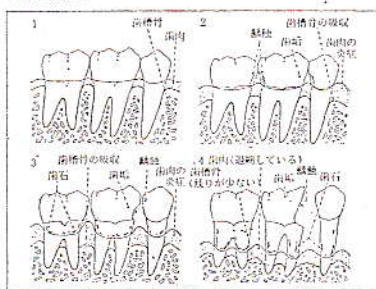
〔歯槽膿漏〕

歯槽膿漏とはわかりやすくいうと、歯ぐきから血や膿がでて、そのために口が臭くなる病気です。痛みはなく骨が吸収し、最後には歯がグラグラして、自然に抜けてしまいます。一般には歯槽膿漏になったら治らないと思われていますが、現在では初期の状態なら

ば、ほとんど元の状態にまで治ります。ただし手入れを怠るとすぐに再発します。これが繰り返して行なわれると、元の状態になるのはむずかしくなります。

歯槽膿漏のため歯の一部がでてきた場合でも、手入によって、それ以上病気は進まず、歯の一部がでていた状態で歯肉の健康の状態を取り戻すことができます。

〔歯槽膿漏〕



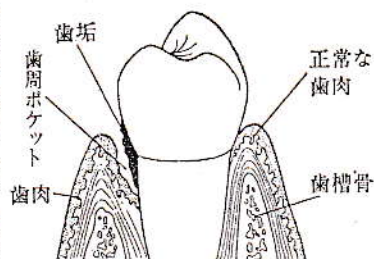
歯周疾患の進行状態

脳卒中などで倒れて寝たきりになり、口腔内の手入れがされないとき、今まで丈夫な歯が3ヶ月もすると、殆ど虫歯になってしまいます。私はリハビリをはじめるとき、口腔内の清掃も同時に指導すべきだと思っています。

槽骨の吸収の仕方ですが、一度ではエナメル質の根の一部が露出する程度をいいます。強度ですとほとんど根端まで出てきます。しかしこれは骨の状態です。歯肉の状態だけをみまると、かなり残っていますから一見悪くないようにみえます。レントゲンを撮ると根端の先まで吸収(へる)している像がでてきます。

病状経過を述べますと正常な歯ぐきが腫れてきます。赤く腫れ、出血し、押すと膿がでます。膿がでれば口臭がでます。この辺から歯槽突起(骨)が減ってくるのです。歯槽突起が減る場合、平らに減るときと、長軸に沿って減る場合があります。長軸に沿って減る場合、横の動きがひどくなります。最後は自然に歯が脱落してしまいます。早目に治療をしたときには、顎骨中の歯槽骨は残りますが、グラグラになるまで放っておくと炎症のため骨の吸収が持続して行なわれますから、骨が吸収されてし

歯周ポケットが出来て歯垢が溜まる



まいます。

グラグラになって抜いた顎骨に義歯を作るのは非常に難しいことなのです。何故かといいますが、歯槽堤(土手)がないからです。あまりひどくならないうちに歯をつくった方が良いでしょう。

(渡辺郁馬)

七六回

雑感

近年、一昔前には考えられなかった、原子核の構造を示す写真が見られるようになり、文字通りピンからキリまで、宇宙のはてから原子まで、人間の探求心の巾の広さにはもっぱな存在とはいえずばらしいと思う。

星の一生、そして、原子核の陽子にもつづれる証拠が確認されつつあると聞くと、まことに永遠なるものはこの世にはないのだと改めて思うこのころです。

しかし、銀河にしろ、太陽系にしろ、原子核も、自然の体系は大小なり小なり、基本的に似た所があるようです。原子核は、あたかも小さな太陽系のように思えます。

こんなことからひょっとして、我々のこの無限といわれる、宇宙全体も、さらに別のもっと大きな(とてつもなく大きな)世界の、

微細な構成の一部をなし、又原子核の粒子の中にも又別に宇宙が存在し、大きい方も、小さい方も、無限に続いているのかも知れないなどと、夢想するこのころです。やはり木の芽の時期は、きをつけてなくては！

(鈴木浩)

編集部より

編集部が、会報を通じて、同期の消息を知り旧交を温め、更に同窓のつながりを強めて岳南健児の輪を一層拡げようと願っていたことは、今やその実が徐々にあらわれ、各期だよりに寄せられる原稿の量は昔と較べると隔世の感があります。

それは、各期が、このスペースを自分達の広場と考えて好き勝手なことを言ってもらおう紙面にして欲しいと常々主張して来た努力が実って来たものと信じています。

これからも皆様の一層のご協力を得て、この欄を更に充実した楽しい懐かしいものにしてゆきたいと思ひます。

年会費が変りました

59年12月5日の幹事会で、年会費が次のように変更されました。

旧 年額 二千円
新 一口 一千円 二口以上

メダカの学校の優等生たち

芹沢 正 憲 (43回)

さて、スナップ中の笑わん殿下のさらにその右隣りの、中学生らしくもなくカスリの着物に紺のハカマをしかつめらしくたくし上げたハタハリ姿のトリオ、馬子にも衣裳でオヤジか兄貴のお下りものでハタハリ姿だけではどうやらきま

られて目下オフロクロが修理に悪戦苦斗中とか、なんとかかんとか言い訳だけは一応スジを通したのはさすがサボテン心臓の持主ばかりと、教官のみならず諸先生のヒンシュクを買ったものである。

殊に水野の如きは、カミソリ熊ちゃんのニクネームも伊達ではなく、ご丁寧に首に綱帯を巻いたカゼビキポーズ、しかも、予め用意した医者の診断書を三歩下がって土下座！おもむろに教官に奉呈するというご念の入った演出で、オッカナイ軍教をまことに

ユウモラスにおちより通したのには、さすがご立派！と生徒一同を唸らせたものである。お陰で後の日、徴兵検査時に軍教合格証について詰問されて徴兵官からえらくしぼられたとばやいていたが、蓋し自ら蒔いた種ではシリのものもって行き場がないと云うべきだろう。

武道場へ行って柔道着でも借りて着換えてこいッ！と大目玉を喰った。こんな熱いオキユウをすえられてもいささかも悪びれず、田圃にころぼちてドブネズミとなつたとか、風来犬にソデを捲りと

テの詩の翻訳が張り付けてあった。多彩で示唆に富んだ話題を提示してくれる彼の存在は、ゲーテセンクツの香り高いスバイスでもあった。伝え聞いた級友スズメのさえずりでは、ッゲーテセンクツ？下手落窟の間違いではないのか？との半信が入ったりしたのも半ばはマトを射ているようだ。ボクらの本はごみだらけ

えらくするのはビールだけビールはボクらを苦しめます本はぼくらを苦しめます寝転んで横目でこの詩を睨みながら誰やらがつぶやく。青白いインテリか！なまじ本ばかり読んでいるよりビールを飲んで楽しく世を送るに限るな。ああ、呟りてえな、泡の立ったビールをこぐりとよ。買ってこい！誰もゼニコもっておらんのか。よくもゼニなしばかり揃ったもんだな。好漢惜しむらくはゼニコのねえのが玉にキズか！ア、ハ、ハ、ハ。さればこそどう面々、名実共にメダカの優等生に間違いないだろう！

大黒板の右隅に『本日弁論部の記念弁論会を開く(於講堂)有志の出席を望む』云々の中学生離れのした仲々の達筆はこの和服組の永井が書いたものに間違いない。というのは、当時この永井と松岡(県会議長)の二人が弁論部の委員を仰せつかったからである。この折永井はキミもゼヒ出てくれよ、頼む、一同君の雄弁を待望すること早天に滋雨を望むが如しだとかなんとか永井流の美辞佳句をならべたかつて芹沢をオダテあげた。芹沢もことわり切れずに渋々屈服した経緯を思い出したからである。演題は、折から大正デモクラシーのウーマンリブが推し上げた婦人参政権問題にヒヤミズをさそうとばかり、『粉碎せよ、女の政治介入！』という勇ましいものであったと記憶する。芹沢が壇上で蜜声をふりしぼって、女が政治などに首を突込むとカマのメシのこげつきばかり作るのがセキの山だ！と怒号したまでは無難だったが、そのあとがいきなかつた。も

ともボクはオコゲはきらいじゃないがね、というぬ蛇足を付け加えたものだが、途端にオコゲがすきな反対する理由はないじゃないかそれじゃ論旨は支離滅裂だ！なっちゃおらん！などと野次の猛襲を喰らって罵言さんぼうの中に壇上で立往生してしまった。挙句は半ばヤケッパチになって、オレがいくらオコゲが好きだからってそうそうコゲツキメンばかり喰っていられるかい、だいいち胃腸に悪いね！とイタチの最後屁ならぬ捨てゼリフを放って、這々の態で講堂から遁走したいきさつがあった。しかしどうした風の吹きまわしか、後日、三位に入賞したというしらせをきいて委員の松岡・永井のご両人の血も涙もある武士道裁定と、ほのぼのとした人間味に芹沢は目をうるませたものであった。

和服三人組中ドサ廻りのヒーロー役者にでもせま欲しい美男子が宮崎で、彼とは文字通りのボン友で、二人でしかしたことで印象に残っているのは何れもロクでもない悪戯か悪ふざけばかり。もとも例外もある。

ある夏、プールで溺れんとした一年坊主(松岡医師の子息)を二人で飛込んで救助して、校長から『君等にしては近頃珍しく奇篤なこと』という特別の文句入りの表彰状を頂いたが、その文句がすべてを物語っているようでもある。

さて、お恥かしいようなロクでもない一件であるが、その日は電爪おろしの吹きすさぶ日で、余りの寒さに堪えかねて、メルヘン街道上の枯れ草に火をつけて暖をとっていた。

油断大敵火がぼうぼうとはよくもほざいたもので、ちよっと目を

放した隙に火種がこぼれて四方八方に拡がって延焼、上衣をぬいで無我夢中でひっぱたいたが、消えるどころか煽りを喰って火の手は拡がる一方。遂にはわれら二人の手に負えなくなつて、早これまでと観念したとき、頭にチャリひらめいたのは孫子の兵法『三十六計逃げるにしかず』だったが、幸い校庭に残っていた生徒らが遠望して救助に馳せ付けてくれて辛うじて消しとめたことがあった。後年宮崎の伯父が静岡市長に就任した所、彼も市役所入りして消防を担当する旨、風の便りをもたらせてきた。その折、芹沢は『お目出度う！貴兄の消防本部入りは近來稀れにきく名人！正に適材適所の典型なるものであらう。貴兄が静中時代に培った消火活動の実戦訓練こそ、必ずや静岡市の防災に役立ち、やがてはねかえつて、市民に福祉をもたらすものと確信する。貴重な体験こそダイアモンド！宮崎兄よ、頑張れ！』との賛詞を添えて激励したものである。もともと『マッチポンプ』などというゲスな言葉は、お互いに紳士たる今日である、弊履の如くカットしたことは申すまでもない。

三人の和服組のさらに右に位するアメフトのチャンピオンのよ

うなガッツタイプが、興津からの汽車通のドカ弁こと北川で、喧嘩の強いことでは校内一、栄あるケンカ横綱のタイトルの保持者であった。北川の左手にぶらさがっているのが名物のドカ弁で、遠路の汽車通で朝が早いため自宅で、食う暇がなく、教室に辿りつくと同様に重箱のようなドカ弁を開いてノドをころころ鳴らしながらバク付く毎朝であった。北川は商船学校を経て高等海員となり、戦時中は海軍の軍用船に徴傭されていたらしい。戦後陸軍少佐で復員した級友石野のもたらした情報によれば、彼の率いる部隊がニューギニアに派遣される途上、図らずも便乗した軍用船のチーフオフィサーが北川だった。洋上での奇遇に驚き合つて、南溟の海でサザンクロスを背にゲンコツで涙をふきふき乾杯したと言ふ。後にアツツ・キスカの両島撤退を支持するアリューシャンの氷の海の作戦で、いかにもドカ弁らしく爆沈された軍用船と共に壮烈な散華をとげられた由。

風しようしようとして易水寒し
壯士一度去つてまた帰らず

以上、七人のサムライ達は、先生の講義などはウハノソラで学校とはメダカのように群れて楽しく遊ぶところとばかり思い込んでいた世にも珍奇なバンディット共。かつてテレビの放映で『良い子、悪い子、普通の子』というユーモラスな番組があったが、この分類に従えば、正に悪い子の典型であらう。したがって『よい子』のエリート組とは全く肌が合わず、平素はロクスッポ口もきかなかつた。ここで想起するのは、フロイドのエディスコンプレックス論である。優等生に対して抱く愛憎の心理を分析してエディスコンプレックスと呼称して、この心理がデリケートに働くため、劣等生は優等生とフレンドシップを結びたがらないと解説している。しかし、われら落ちこぼれ組の『悪い子』に言わしむれば、決して学力的な劣等感からではなく、『よい子』の秀才組と赤裸になつてつき合つても、ほのぼのとした友情が湧いてこない。恐らく『よい子』には個人差もあるが、人間的なスパイスが欠乏しているからで、つき合つても、面白くもなく悲しくもない。したがってメリットもなさそうなのでこちら側から敬遠申し上げたと言ふのがホンネであらう。

合掌。

なんとすれば、当今はいざ知らずわれらの時代には落ちこぼれ組の

『悪い子』の方が優者の地位に立つて巾をきかせていたのだから、エディスコンプレックスを痛感していたのは、むしろ『よい子』のエリート組の方ではなかったかと思うからである。そんな妄説をひけらかすと、フロイドのオヤジに怒鳴られるぞ！とは、さる名誉教授のいらぬお節介！

ここに刮目すべきはこの『悪い子』の七人組中、水野、永井、若槻、小川の四人が進学して選んだのがパンカラ早稲田、『良い子』の中には一名も見当たらないのに反し、伏見、堀田などの慶応ボーイのプロフィールが散見される。して見ると、中学時代の硬軟両派の進学アプローチとカレッジ・カラ一とは、その時点ですでに宿命的な糸でガッチリ結ばれている、ともいふべきだろう。

いま芹沢はこのスナップと対面して、七人の『悪い子』に押しまわられて隅の方にちぢまわっている『良い子』のオスマン顔を穴のあくほどみつめながら、記憶の糸をまさぐっている。いるわ！いるわ！むかしの優等生やら秀才やらの『良い子』たちがビールの泡がジョッキから吹きこぼれるように。中でも秀才の誉れの高かった小倉(終戦時中佐)河瀬(静岡医師

会長)田畑(学芸大教授)アックツ(国立病院長)三宅(東大名譽教授)E.T.C.を始めキミもボクも良い子たちが目白おしにオシ合ひヘン合ひしている。これこそ『悪い子』のゲーテ潜窟ならぬ『良い子』のバックingham宮殿！

ここで芹沢の脳裡をチャリかすめたのは悪貨は良貨を駆逐するというグレッシャム法則なるものである。なるほど！恰もこの法則に忠実ならんとするように、なんと『悪い子』どもが『よい子』たちを後方に駆逐しているではないか！グレッシャム法則は独り貨幣の含有純度のカテゴリにだけに大手をふつて罷り通る法則ばかりでもないようだな、と独り苦笑した。またこのスナップ・ショットは誰かディレクターがあつて人物配置を案配したわけでもないのに『良い子』『悪い子』をはっきり仕分けて線引している。きわめて自然に、スムーズに。ああ、これこそ当節はやりの偏差値ラインに違いない！芹沢はわが意を得たようにカンラカンラと高笑いした。そして往年のウサ晴しのようにポルテージ高く叫んだものである。

偏差値ラインよ

消えてなくなれ！

恩讐の彼方へ！

(完)



ふるさと

「ふるさととは遠きにありて思うもの」と言われていますが、実際に静岡から離れて暮らすと、ささいなことでも懐かしく感じられるものです。

母校の校舎・運動場、長谷通りや堀端、七間町や呉服町の町並みから、安倍川や竜爪山の姿など、帰省の折りなどに感じられたことを思いつくまま書いて送って下されば、会報を読む楽しさも、ひとしおと思われれます。

富士の見える町

44 故 野 間 省 一

朝に夕に富士山を眺め、お茶と蜜柑の産地である静岡市が私の生れた故郷である。

母校静岡中学（今の静岡高校）の校歌にも「岳南健児一千の、理想は高し富士の山」とか「八面玲瓏白雪の」といった文句があるが、「秀麗の地に健児ありとはわれわれのことだぞ」などと口ぐせのように先生から気合をかけられたものである。とにかくこの霊峯を四時の友として、常に何かを教えられ何かを暗示されて育ったこ

とは、私にとってこの上もない幸せであったと思っている。

家康の幼時、石合戦を見て小人数側の勝と判定し、早く麒麟児の機鋒をあらわしたと伝えられる安倍川は市の西方を流れて居り、その橋の袂に大きな柳の古木がある。これが道路拡張の邪魔になるというので、伐り払われる運命になった時、その頃の知事の英断によって取り止めとなったのを聞いて嬉しく思った少年の頃を思い出す。この柳の老木は今でも太い幹をぐつと斜めにつき出して、殺風景な鉄橋のながめに潤いを持たせているはずである。

その柳の少し手前に名物の安倍川餅の店があった。あまりきれいでない古びた店先きに腰をかけた時、つくり立ての安倍川餅を食べた時のうまかったことも忘れられない。今もなおあの店があるかどうか。まだ残っているのだったらもう一度あの店先きで作り立てのうまさを感じてみたいものである。

とろろ汁で有名な丸子は安倍川の西にあり、その近くの吐月峯は

連歌師宗長がいたという柴屋寺で有名である。煙草の灰落しに使う吐月峯はここから出たとも伝えられている。学生時代ここを訪ねた時一人の尼僧が、寺の縁はなで、竹を削って何か細工物をしていたひそやかな姿が、今でも印象的で忘れ難い。

この柴屋寺から見る月の美しさはすばらしい眺めであり、さらに東には清見寺、昔の清見が関、竜華寺など、三保の松原を一望におさめる風景は世にも名高いものであり、日本平から見る富士の景観など日本でも屈指の風光に恵まれているのも、お国自慢として挙げられるであろう。

更にお国自慢をならべるなら、久能山の石垣に栽培される石垣苳があり、近年発掘されて一時に有名になった登呂の遺跡は静岡駅の南方にある。

少年の頃はそれ程と思わずに過ぎた郷里であるが、今になって振り返ってみると、風景にも風土にも恵まれていることの多いのに驚くくらいである。（静岡市院内町生、講談社名誉会長）

◎この一文は昭和29年5月刊行の「ふるさと随筆」（全国出版協会出版部・発行）に収録されたものです。出版関係者70氏がそれぞれ

自分の郷土を描いた随筆集で「ふるさと」が人柄をそでてる大きな力であることを示しているように思います。

あこがれの母校

週刊サンケイに連載で阿部牧郎氏が筆をとっておられる、『偏見球談』84に、「あこがれの母校」と題して静岡高野球部のことがありましたのを、白井力氏（71回）より知らされ、岡氏のご尽力により週刊サンケイのご厚意が得られましたのでご披露いたします。

◇ 十一月の終りごろ、静岡へいった。浜松、静岡両市を一日ずつ見物した。年明けから静岡新聞に連載小説を書くことになった。その取材である。

私にとって静岡は、上京のつど素通りするだけの街だった。まったく土地勘がない。タクシーで市内の要所を見物してまわった。史蹟と学校の多い、おちついた街だった。商店街にもけばけばしい感じがなかった。古い町なみと現代の風物との調和がうまくいっている。京都の街を思わず風景が多かった。

夕暮れ、静岡高校へ立ち寄った。

グラウンドで野球部が練習していた。センター後方から見物した。伝統ある高校はどこでもそうだが、熱狂的な野球ファンがいる。OBや近くのご隠居さんなどが毎日のように練習を見にくる。その人たちのための小スタンドがバックネット裏にあった。右中間の後方ではサッカー部が練習していた。吹奏部の生徒たちが美しい和音をひびかせて練習中である。いい雰囲気だった。自分の母校でもないのに、なつかしい気分になる。高校時代から人生をやりなおしてみたい。痛切に思った。

グラウンドはもう夜に近かった。一塁側、三塁側フェンスに大型の電灯が点々と掲げられて、内野を照らしていた。カクテル光線にはほど遠いけれど、夜間練習ができるようになっていた。PL学園だの東海大付高だのとちがう素朴な照明装置がいかにも県立の名門高らしくていい。風情があった。遊撃手と三塁手がノックでしごかれていた。電灯の照明では、うす暗くて、送球で怪我をするおそれがあるからだろう、スローインがなし。ゴロをとるだけの練習だった。ノッカーが右に左に交代で遊撃手、三塁手を走らせる。二人の内野手はゴロをとって、ファ

ウルラインの外へころがす。そのくりかえしである。特訓をうける二人の背後に、ほかの選手が行列横隊で待機してこぼれ球をひろう。いっぽうで外野手もノックをうけている。暗くて飛球は無理だ。安打の打球をとって、二塁へ送球する練習だった。ただし、こちらで送球はなし。ゴロをとるだけである。

設備の不足に苦勞しながら、みんな懸命に練習している。高校野球だなあ、としみじみ思う。デラックスな設備のもとでおこなわれる野球よりも、みていた気分がいい。いろんなハンデとたたかいながら練習する選手たちの姿には、野球にたいする情熱がみなぎっているからだ。好きで野球をやっている——それがじつによくわかる。プロ野球にいちばんかけている要素である。しかも、技術的にかなりレベルが高い。毎日のようにネット裏へやってくる、ご隠居の気持がよくわかった。私も決定的においばれたら、自宅の近くにある春日丘高や浪商高のネット裏へ日参しようかと思っている。

でありたかった。そう思われる学校がいくつかある。静岡高は、その一つである。土佐高、鳥取西高、今治西高、盛岡一高などもそうだ。いずれも進学校であり、野球もつよい。生徒たちが胸を張って応援する。自分の学校に誇りをもっているのがわかって、みていて気持ちいい、肩を組んで、揺れ動いて。よろこびの発散がいかににも自発的なのである。動員され、練習をつんだ応援ではない。角刈りガ克兰の暴力団ふう応援部員がさばっている学校とおもひがちがう。生徒たちの一体感が濃いの。たのしみながら野球部をはげます。ああいうふうな声援されるのが、選手もいちばんいい気分だろうと思う。いわゆる野球名門校のうち、静岡高などに似た応援をするのは、早稲田実業だった。古い学校には、やはり固有の文化の成熟があるようだ。

後の、気さくな紳士だった。「植松くん、どうしてですか。元気にやっていますか」私は寺田部長に訊いた。もと阪神タイガースの植松清一のことである。静岡高、法政をへて阪神入り。一軍で活躍した年もあるが、定着できないまま、昨シーズンかぎり自由契約になった。静岡へ帰ったときいていた。植松は法政で江川卓の同級生だった。以前江川をモデルに小説を書いたとき、私は彼から取材したことがある。パワーがないから、一軍で活躍するのはむずかしいです。彼は自信をなくしかけていた。寺田部長は植松の消息を知らなかった。すると、相客の紳士が教えてくれた。

「植松は市内の会社につとめています。すっかり馴れて、元気になっていますよ」静岡高校は昭和四十八年の夏の甲子園大会で準優勝した。当時の三番打者が植松だった。広島商との決勝戦は球史にのこる好試合だった。私はスタンドでその試合をみた。植松、水野、白鳥のクリーンアップは、高校生はなれした豪快なバッティングで観客を酔わせた。その思い出話を私はした。おもしろいすな。紳士は感心してくれた。訊いてみると静岡高野球部のOBだという。名前は中尾さん。昭和二十三年、甲子園へ出た静岡中学の捕手だった。一回戦、成田中に6対3で勝った。二回戦で、岐阜一中に1対3でやぶれた。岐阜のピッチャーはかの花井悠氏であった。中尾さんは四番を打ったが、3打数0安打に終わった。「速かったすなあ花井の球は。手も足も出なかった。静岡はヒット一本だけでした。四球が4つあったから、1点をとれた」

「それは、感動してしまつた。地方都市のすばらしさだ。野球史の貴重な証言者に会える。二十三年、静岡中学は春の選抜大会でも甲子園へ出場した。このときは芦屋中学に負けた。芦屋中の投手は有本義明氏だったという。またもダハであった。ものすごい野球エリートと私は同席したことになる。当時の話をいろいろきかせてもらった。戦時中、静岡の草薙球場のグラウンドを中学生たちは開墾した。麦を播くためだった。掘ってみると、グラウンドはおそろしく固かった。野球場は、こんなに固いのか。感心しながら中尾少年は歎をふるった。

昭和九年、ベーブ・ルースを中心とする大リーグ選抜チームが来日した。十七戦全勝。こてんぱんに日本チームを撃破して帰った。草薙球場では当時十七歳の沢村栄治が大好投。大リーガーたちをゲーリッグのホームランの1点におさえた。日本チームに勝機のあった唯一の試合だった。

草薙球場を開墾したとき、西陽が出ていた。バッターボックスに立ってみると、西陽がちょうど打者の顔をまともに射る位置でかがやいていた。なるほどなあ。中尾少年は考えたという。沢村の大好投は西陽に助けられた向きもあつたのではないか。好投にケチをつける気はまったくないが、沢村は強運の投手でもあつたのだ——。おもしろい話である。現在の草薙球場は、西陽がじやまにならないよう、マウンドの位置が変えてあるそうだ。

「私たちは三宅大輔や新田恭一の本で野球を勉強しました。ところが最近の子はテレビ解説で雑然と知識を頭につめこんでいるだけ。案外なにも野球を知らないのですよ」

中尾さんの言葉が印象的だった。野球をつうじた文明批評である。

静高だより

復活 バスケ部

過去、インターハイ、国体合わせて17回の全国大会出場を誇る母校バスケット部は昭和43年の広島インターハイを最後に「全国」から遠ざかっていったが、昨年の秋の県高校トーナメント大会、そしてこの春2月11日に行なわれた県新人大会に優勝するなど、もったところ県内無敗の26連勝である。

「いいチームが出来上がりそうです。期待してもらって結構ですよ」OBでもある川崎健三監督(47)の言葉は力強い。選手も個性豊かで層が厚い。主将の町田(180

cm)は外からのミドルシュートが巧みで決まりだすと手がつけられない。同じフォワードの西山(180cm)もジャンプシュートが得意である。町田がマークされれば西山が着実に得点してくれるから心強い。一方センターは田中(188cm)と2年生の田嶋(185cm)の二人の長身コンビである。田中は一年生の時からオール静岡に選ばれたり、全国高校強化合宿に参加するなど県内ナンバー1センターである。

体格もがっちりしていて、ゴール下のせり合いはじつに強い。田嶋も一年生の時からスターティングメンバーに起用され、一試合ごとにたくましくなってきたから、こ

れから夏にかけてのこの二人は楽しみである。

これまで紹介した4人は、いずれも180cm台と大型であるが、ガードの成瀬は165cmとチーム一のチビだ。しかし、50mを6秒で走るスピードディーナドリブルとパスワークはなかなかのものである。落ち着いたゲーム展開は見えていて安心だ。その他川辺(180cm)や橋(173cm)や2年生の中川(173cm)など、コートに出れば必ず得点してくる意地のある選手がいる。

このように、今年の静高は底力がある。決勝戦にしても、楽勝とまではいえないが、相手のリードを一步もゆるさず、着実に差を広げて勝っている。

練習時間は午後3時からたった2時間。午後5時には終了する。「人間の集中力なんて、そう長続きするものじゃない。練習は量より中身です」。川崎監督の持論だ。だから22人の部員は、練習中決して立ち止まることがない。3対3、4対4のゲーム練習が、2時間休むことなく続けられる。この実戦に即した練習が「ミスが少なく、大きく崩れない」今年の静高のチームカラーに現われている。

川崎監督は教育大出身であるが、昔の教育大がやはりミスが非

常に少なく、最後まで崩れない独得のカラーであったが、この精神が今の静高に生かされているのかもしれない。OBでもある川崎監督と現役諸君の久びさのインターハイ出現を期待したい。

県高校トーナメント大会(12月)
△決勝戦▽
静高88(43・34・45・42) 76浜松西
県高校新人戦(2月)
△決勝戦▽
静高64(30・24・34・28) 52浜松西
バスケット部OB殿岡裕規(86)

静岡新聞社営業局勤務
サッカー部強化し
「静高サッカー部強化」の声の中、サッカー部が大活躍を続けている。二月三日から浜松城北工グラウンドを主会場に行われた「冬の高校サッカー県下一」を決める「県高校新人サッカー大会」に出場したサッカー部は、エースストライカー賤機を中心に大石・海野など好選手を擁し、次々と勝ち進んだ。

サッカー部強化し

まず浜松北を1-0、次いで静岡北を2-1と連破し、準々決勝では正月の高校選手権県代表、全国三位の藤枝東と対決、1-1のタイスコアの末PK戦で下した。準決勝では優勝候補の呼び声が高

かった静岡工も2-0で下し決勝へ進んだが、清水東のエースストライカー武田のワンゴールのため1-1で涙をのんだ。

しかし今年の静高は強いゾウの評価を高めた。

その清水東と共に出場したのが名古屋で行われた「第五回中京テレビ杯選抜高校サッカー大会」。

変則トーナメントのため準々決勝からの対戦となったが、滋賀代表水口を1-0、準決勝で愛知代表中京を3-1で下し、決勝では正月の高校選手権の覇者で東京代表の帝京を2-0で破り同大会初優勝を飾った。

今後のインターハイ、高校選手権を目標に、松永監督の指導のもと厳しい練習が続いている。

静高—静岡定期戦

延長十回勝ちを逸す

第二十七回静岡—静岡定期戦は五月三日静岡球場に九千人のファンを集めて行われたが、延長十回三対二で今年は静岡の勝ちとなった。これで対戦成績は静岡の十七勝十敗。

静高は二回、野島の右犠飛で、無安打ながら一点先取、八回には



12月2日、県高校トーナメント大会決勝、対浜松西。前半15分、4番町田シュートを決める。写真提供 静岡新聞社

矢田の中前通時打で一点を奪ったが、静商は三回、六回に一点ずつ、延長に入って十回、静高の二番手望月を攻めて試合を決めた。静高打線が、静商の左腕下村の投球の前に三安打に抑えられたのが痛かった。

春季高校野球大会

浜商降し準決勝進出

五月六日行われた春季高校野球県大会第二日、春のセンバツ出場の浜松商業と対戦した静高は四一で浜商を下し、四強入り、十一日の準決勝で東海大工と対戦することになった。

この試合静高はエース望月が、長短八安打を許し毎回のようにピンチに立ったが、コーナーを丹念につく粘りの投球で後続を断ち切った。内野陣も二併殺と好守で望月を盛り立てた。

打線は二回、四番矢田の右中間二塁打を足がかりに、内田、清水の適時打で二点先制。八回には二死四球と梅原の三前安打で無死満塁、内田の左犠飛と望月の右前安打で二点を加えた。

浜商は優勝候補の一角と目されていたが、この試合、三、九回を除いて毎回走者を出しながら決定打がなく四回一死満塁から八番浜



崎が左犠飛を打ちあげて一点を返したにとどまり、残塁は九個を数えた。

静高、十九年ぶりの優勝

静高が春の県下一を獲得した。

春季高校野球県大会最終日は十一日、浜松球場で準決勝2試合と決勝を行い、静高が四十一年以来、十九年ぶりに四度目の優勝を飾った。準決勝第一試合の東海大工一

静高は土壇場の粘りで4-4の同点に追いついて、延長に持ち込んだ静高が延長十一回、矢田の決勝打でサヨナラ勝ち。静高一袋井の顔合わせとなった決勝は、静高が塩沢、袋井が高橋と、ともに二番手投手をマウンドに送ったが、静

高塩沢が巧みな投球をみせた。打線も矢田の2ランなど9安打で7点と効率のいい攻めを披露、71で開校十年目の袋井を倒し古豪の意地をみせた。

「優勝は私が高校二年の時以来ですから勝たなかった」と母校を率いる船川監督は、久々の春の覇権を獲得してほっとした表情。県大会直前の静商との定期戦で

敗れ、県大会に入っても初戦の伊東商に大苦戦するなどたついていたが、2回戦の浜松商戦に競り勝って勢いに乗った。看板の打線

が渾り気味で、二番手の塩沢が優勝投手になったが、エースの望月がまだ不安定と、チームの状態は完調とはいえない。しかし、それでもしぶとく勝ち抜くあたりは伝統の力を感じさせた。

夏に強い、といわれる静高だけに、今夏も甲子園を巡る争いの主役を演ずるかどうか、興味深いところ。(提供 静岡新聞社)

会報に広告の

掲載をしてみませんか

一マス一回 一万円です。

会報発行に資金的ご援助の意味と、確実に三千部同窓生の目にとまる利点をお考え下さって、広告掲載にご協力下さい。

五四回

磯野修君は一九二二年、静岡市水落町で生を享けた。

父方は静岡の名家磯野家の分家で、母方は知る人ぞ知る、かつての東京商大で、安本長官(現経企庁長官)をもつとめた、高瀬太郎氏の出られた富士宮の旧家である。

幼い時から神童の誉れ高く、附属・静中を通して常にトップを走り続け他の追従を許さなかった。

四年修了で東京商大(現一橋大学)に進み、元学長、故中山伊知郎教授のゼミに入られたが、才能を囑望されて研究室に残り、学究の道に進まれたのであった。

静中時代、小柄で一見蒲柳の質とお見受けしたが、それかあらぬか、不幸、病魔の侵すところとなり、清瀬にて数年間病床に呻吟する身とはなったが、不屈の闘志をもってこれを克服し、教壇に復帰されたのであった。

私はかつて西荻に同君を訪ねたことがある。温和な顔立ちに昔と変わらなかったが、闘病生活を経た強さを身につけ、逞しくなっておられたのには驚かされた。

その後、国立の官舎に移られたが、やがて現在地へ居を構えられ

現在に至っている。

当時、商大の同輩や後輩が学界やマスコミに話題を賑わしていた時も、じっと鳴りをひそめていたが、今や森田教授のあと日本で統計学の権威となった同君が、「確率・統計」(写真参照)を上梓されたと聞いた時、私は静中時代、十八史略で、楚の莊王が「三年不蜚不鳴」と言ったくだりを思い出し、その勢いは必ずや天を衝き、人を驚かすであろうと思った。



しかも、執筆されている原稿用紙は、小生の精魂込めて造ったものであるから、なおさらその成功を祈る気持でいっぱいである。

私は同君の著書が全国の大学をはじめ江湖の注目を聚め、近い将来、洛陽の紙価を高めるであろうことを信じて疑わない。

磯野 修著 「確率・統計」
A5判各二五〇頁 上製箱入
各冊三、五〇〇円 春秋社刊



会ではゴルフ・ハイキング・釣り・麻雀(規則・人数等に障害があり休業中)等により会員相互の親睦をはかっておりますが、毎月の各種の交流や運動部などOB会等も行われているやに聞きます。新しく参加したい人達も多数あると思われますので、この欄をつかってご披露いただけませんか。

ハイキング会

晩秋の伊豆ヶ岳に行く

昨秋十一月十八日正丸峠―伊豆ヶ岳ハイキングを行いました。



雲はあるがまずまずの天気、参加者は54庵原、60上杉、62中野、68大川、68荒谷、68杉山、69神谷と月見里の八名。計画通り11・01正丸駅着、バスでガーデンハウス入口へ、舗装された国道二九九号線を少し歩いて正丸峠着。自動車やバイクの群がる茶店の裏手から伊豆ヶ岳に向う山道に入る。

少し登って猪尾根を渡る頃、都会の雑踏から逃れた思い。落葉の山道に秋の匂いを懐かしみながら上り下りすると小高山の茶店に着く。伊豆ヶ岳を望めば雲の中である。時間も十二時を過ぎたし予定を変更して昼食とする。例によって御婦人の方の御馳走に舌鼓、茶店の甘酒は林間紅葉に相応しからずと一瓢に換えてポケットウイスキー持参の風流人もある。

小高山を降り、尾根を巻いて右に横瀬の谷を見下しながら植林地に行く。秩父と奥多摩の山々は曇って見えない。二十分程でワイヤーロープを張った赤土の急坂にかかり、少々汗ばむ。恰好のよい岩のピークで記念撮影をして林中の鞍部に下れば、目前に聳え立つ岩壁、鎖場の直登五十米位か?……今日は御婦人の事も考えて右の女坂に御案内と思った所が、サスガ岳南健女、此処まで来たからにはと岩場に挑戦。鎖に縋り岩を抱き頑張ること三十分、悪戦苦斗の末頂上の岩頭に立った笑顔は、静高時代青春の日に返っていた。

もう一度岩場の上り下りがあって伊豆ヶ岳に達する。頂上はガスの中で伊豆が見えると言う眺望はきかない。

記念撮影をして降りる事とする。下りは左に山腹を巻いて雑木林の中、猿梨の実も既に落ちたらしい。裸も埋める落葉を踏み分ける音に秋の深まりを感じつつ、先程の鞍部に着く。U氏が未だ来ないとして待つ程に、大人飄々として

一首浮びつつある風情、ウイスキーのせいだ等と言うのは俗物の考えだろう。往路の尾根を少し戻って大蔵山に降り。尾根から谷を直降に近いので少々膝にこたえるが、山道の紅葉や朴の落葉も捨て難い。ポツポツと時雨で来たので急ぐうち四十分程で集落に着き、舗装道を十五分許り、途中茶店の手造り菊蕨等のぞきながら15・30頃正丸駅着。15・49の快速電車で家路についた。

膝の疲れも腰の痛みもこの満足感で充分、フアイトも体力もまだまだ若いと自信を持った今年のイベントでした。(月見里)

江の島会 案内

- 一、日時九月一日(日) 正午から
- 一、場所江の島恵比寿屋旅館
- 一、会費男子七、〇〇〇円
女子五、〇〇〇円
- (共に記念写真・通信雑費を含む)

- 一、お願い 同窓有志をお誘い合
わせの上ご出席下さい。
- 一、連絡先 〒二五一藤沢市鶴沼
花沢町五の十七村松直宛(電
話〇四六六二六二二三三八)

建築設計・監理

株式会社 ユニオン設計センター

代表取締役 成 岡 英 彦 (67回)

一級建築事務所登録7425号

東京都新宿区西新宿7-14-9 規格ビル

TEL 03-363-8604 (代表)

同窓会コンベンなど、ご相談ください。

伊豆大仁カントリークラブ
伊豆大仁開発株式会社

代表取締役 石 橋 正 秋

取締役支配人 安 田 正 弥 (66回)

静岡県田方郡大仁町浮橋字南松坂1198-1

TEL 0558-76-2401 (代表)

『一』え

振替用紙の通信欄から、お便りを紹介します。

尚、転勤、転宅、進学、就職等住所や電話番号など変わる時は、水道、ガス、電話、郵便局等々の届けに加えて、同窓会への通知もお忘れなく。

59年度会費をお送りいたしました。尚、本人福田功は、昭和59年12月23日死去いたしましたので、よろしくお願い致します。

福田 ヨシ
44 外川 誠

同期の野間省一君が亡くなった。彼は本当に勝れた人であったが、何故か私には若くして病いに倒れ、亦戦争にかり出されて心ならずもこの世から消えていった心優しい多くの友の在りし日の姿がありありと目に浮かぶ。生き残りの友と共に彼等のご冥福を心から祈ろう。

45 柏木 千秋

歳はとっても一応元気にしております。六月二十九日は、その前後三月ほどヨーロッパに行っておりまして、出席できませんでした。

45 千葉 保次
静岡市に生れ、戦後は千葉県下

で父祖伝来の眼科医業を継承、今は眼科医の伴と一緒に働いている。母校の校歌「岳南健児」と歌い出すと、途端に青春がよみがえって来て元気が旺盛してくる。クラスの時木弥門兄のご尽力で級友との連絡がよく、幸せに暮している。

47 高山 貞男

現職をはなれ悠々自適の生活をしております。

47 鍋田 康

五六年四月、旧静岡聯隊の戦友会と慰霊祭が静岡の護国神社であり、これの出席の折倒れ、以来療養につとめて現在は小康を得て居ります。

47 関口不二夫

もう七十一歳になりますが、健康にめぐまれ、生き甲斐のある仕事をやりながら趣味(謡曲、甚)の方もたのしんでいます。

48 影山 浩

編集に色々工夫され、いつもののしく拝見しています。振込通知票に四度も住所氏名を記入しなければならぬのは煩さすね。静岡

高校同窓会の方は通知票と控の二枚書けばいいのですが、研究して頂けると有難いですね。

◎様式は郵政省の認可を必要とします。事務局

48 奥山 正

昭和五年五月英語の時間の天覧授業陛下の御立台を切った表札も再度の引越して失ってしまったのは残念です。

49 直原 敏衛

年々同期生が減って行くのは淋しい限りです。退職年金生活ですが、全世界にハムの友人がいて幸せです。JA1KFNと通信して下さい。主として電信です。

50 緑川 俊徳

二〇年に及ぶ大阪チヨンガー生活に終符を打ち、表記の自宅に戻りました。関東支部は始めてです。どうぞよろしく。

51 下山富太郎

S21年3月、終戦後、東京世田谷にて医業開業し、現在も元気で救急病院をやっています。貧乏暇無しです。

51 吉野 悟郎

会社をリタイアいたしました。只今シヤム猫改良に専念いたしております。只今妻とシヤム猫三十六匹、毎月さわがしい日々を過しております。

51 福永 英武

夫、英武 五十九年十一月二十八日急逝しました。長い間のご交際有難うございました。妻 恭子

52 弓削 恒

今年の冬から国立市高齢者事業団に入りましたら、十二月十九日まで連日府中の某社で手足全身を使う文字通りの働きでくたくたになり、御返事が遅れ申訳ありません。来年度は郷里の静岡県島田市大津通八五六八の六に帰省居住致しますので宜しく。深謝。

52 石野 浩一

外見と内臓は人並みの健康と言えるでしょうが、右脚坐骨神経痛のため、腰掛けることのできない会合には義理を欠いてばかりいます。

52 小川善次郎

静中・静岡関東同窓会会報第18号をお送下さって有難うございました。同期の広川聡さんが、卒業50周年の記念会を計画中と発表しておられ、来し方を想い感慨無量です。幹事の皆様の御尽力に感謝しております。

52 吉野 悟郎

五十九年六月から東京を離れ、外房天津小湊町に転居。四十年近い公人生活から開放されました。晴耕雨読の生活を楽しんでおります。

52 田中 祐三

五十九年春、六十歳を期に朝日新聞社を退き、フリーの物書きとなりました。

52 岩井平一郎様

同窓会にはご無沙汰許りで申し訳ありませんが、会報を頂戴し懐しく読ませて貰っております。今後とも宜しく願います。

57 牧 知巳

うっかりして居りまして、会費納入が遅れました。御面倒をかし訳ありません。

57 後藤 利彦

今年還暦を迎えましたが、お蔭様でまだ元気で勤めて居ります。いつもいろいろ御手数です。よろしく御願い申し上げます。

57 岡田 久男

ご無沙汰しております。一度お逢いしたいですね。遅くなって申訳ありません。

57 田中 祐三

五十九年春、六十歳を期に朝日新聞社を退き、フリーの物書きとなりました。

57 瀬端 一男

十月中旬、東亜同文書院大学予科の同期生有志と北京・上海・杭州と回り、母校のあと(現上海交通大学)も見て来ました。四十年ぶりの中国再訪で、まことに感無量でした。

57 瀬端 一男
6月29日出席できずお手数をお掛けしました。ご苦勞様です。今後共よろしく。

59 福地 顯

五十九年度会費納入おくれで申し訳ありません。埼玉という未知の土地で生活しておりますと、静中同窓会は心のふる里とも思えます。今後共会の発展を祈っております。

95 本田 豊

三年間富山に滞在して去年夏に東京に戻って来ました。

新勤務先

三協アルミニウム工業株式会社
東京支社 国際事業部担当理事
TEL 03-586-1843-1

60 木村 武

夫武儀、昭和五十九年六月十日に亡くなりました。生前は大変にお世話になりました。お知らせするのが遅くなり申し訳ございません。

別便にて、昨年十月に出版致しました主人の著書をお送り致します。どうぞお暇な時にでもお読み下さいませ。他の方々にもおすすめ下さいませ。

かしこ

63 三枝 弘之

いつもお世話になります。調べたら58年度会費も未納のようで、二年分お送りします。遅れてしまつて申し訳ありません。よろしくお願ひ致します。

尚、一昨年より、バナファコム

株式会社専務となりましたのでよろしく。

64 村上 幸之

ごぶさたしていますが元気でやっています。会社ではビデオシステム事業部長で多忙を極めてます。が、来年は同級会ゴルフコンペに出たいと思っていますのでよろしく。

64 佐野 旭

会費も納めず同窓会にも出席しない不良会員ですが、毎回会報を送って頂き、感謝しております。次回是非共出席致したいと願っております。

皆様のご健勝をお祈りします。

64 馬場 泰男

たいへんお世話になります。いつもほんとになつかしくしたのしみます。昨年、都電面影橋駅前(早稲田の一つ手前)に本社社屋をつくり移りました。郷土の香りを味わいに、お近くに来たときお立ち寄り下さい。

木村佐和子

増井 和夫

浜松支店在勤二年半単身で頑張っています。

(留守宅)

東京都港区三田一ノ十一ノ四五

67 朝倉 勇

会費納入が遅れてすみません。

66 増井 和夫

会費納入者名に自分の名がないのを見て恥しくなりました。来年は同窓会にも出席したく思います。

モトキツチャン先生の歌集いただきました。お世話役ごころうさまでした。皆様の健康をお祈りいたします。

68 小島 哲彦

福井へ転勤して2回目の冬を過ぎました。同窓会も欠席続きで残念に思っています。当地にいますと、静岡の冬の暖かさが別天地のことに様に思えます。

皆様によろしく。

会費の納入遅延して申訳ありません。会報を読み、同窓諸兄弟のご活躍の近況を知ることができて嬉しく思います。一層のご健勝を祈ります。末筆ですが、荒谷さんには、いつもお手数を煩わして感謝の限りです。

68 長谷山 南

会費の納入遅延して申訳ありません。会報を読み、同窓諸兄弟のご活躍の近況を知ることができて嬉しく思います。一層のご健勝を祈ります。末筆ですが、荒谷さんには、いつもお手数を煩わして感謝の限りです。

68 長谷山 南

会費の納入遅延して申訳ありません。会報を読み、同窓諸兄弟のご活躍の近況を知ることができて嬉しく思います。一層のご健勝を祈ります。末筆ですが、荒谷さんには、いつもお手数を煩わして感謝の限りです。

68 長谷山 南

会費の納入遅延して申訳ありません。会報を読み、同窓諸兄弟のご活躍の近況を知ることができて嬉しく思います。一層のご健勝を祈ります。末筆ですが、荒谷さんには、いつもお手数を煩わして感謝の限りです。

68 長谷山 南

会費の納入遅延して申訳ありません。会報を読み、同窓諸兄弟のご活躍の近況を知ることができて嬉しく思います。一層のご健勝を祈ります。末筆ですが、荒谷さんには、いつもお手数を煩わして感謝の限りです。

68 長谷山 南

会費の納入遅延して申訳ありません。会報を読み、同窓諸兄弟のご活躍の近況を知ることができて嬉しく思います。一層のご健勝を祈ります。末筆ですが、荒谷さんには、いつもお手数を煩わして感謝の限りです。

68 長谷山 南

会費の納入遅延して申訳ありません。会報を読み、同窓諸兄弟のご活躍の近況を知ることができて嬉しく思います。一層のご健勝を祈ります。末筆ですが、荒谷さんには、いつもお手数を煩わして感謝の限りです。

68 長谷山 南

会費の納入遅延して申訳ありません。会報を読み、同窓諸兄弟のご活躍の近況を知ることができて嬉しく思います。一層のご健勝を祈ります。末筆ですが、荒谷さんには、いつもお手数を煩わして感謝の限りです。

68 長谷山 南

会費の納入遅延して申訳ありません。会報を読み、同窓諸兄弟のご活躍の近況を知ることができて嬉しく思います。一層のご健勝を祈ります。末筆ですが、荒谷さんには、いつもお手数を煩わして感謝の限りです。

68 長谷山 南

会費の納入遅延して申訳ありません。会報を読み、同窓諸兄弟のご活躍の近況を知ることができて嬉しく思います。一層のご健勝を祈ります。末筆ですが、荒谷さんには、いつもお手数を煩わして感謝の限りです。

68 長谷山 南

会費の納入遅延して申訳ありません。会報を読み、同窓諸兄弟のご活躍の近況を知ることができて嬉しく思います。一層のご健勝を祈ります。末筆ですが、荒谷さんには、いつもお手数を煩わして感謝の限りです。

68 長谷山 南

会費の納入遅延して申訳ありません。会報を読み、同窓諸兄弟のご活躍の近況を知ることができて嬉しく思います。一層のご健勝を祈ります。末筆ですが、荒谷さんには、いつもお手数を煩わして感謝の限りです。

68 長谷山 南

会費の納入遅延して申訳ありません。会報を読み、同窓諸兄弟のご活躍の近況を知ることができて嬉しく思います。一層のご健勝を祈ります。末筆ですが、荒谷さんには、いつもお手数を煩わして感謝の限りです。

68 長谷山 南

会費の納入遅延して申訳ありません。会報を読み、同窓諸兄弟のご活躍の近況を知ることができて嬉しく思います。一層のご健勝を祈ります。末筆ですが、荒谷さんには、いつもお手数を煩わして感謝の限りです。

68 長谷山 南

会費の納入遅延して申訳ありません。会報を読み、同窓諸兄弟のご活躍の近況を知ることができて嬉しく思います。一層のご健勝を祈ります。末筆ですが、荒谷さんには、いつもお手数を煩わして感謝の限りです。

68 長谷山 南

会費の納入遅延して申訳ありません。会報を読み、同窓諸兄弟のご活躍の近況を知ることができて嬉しく思います。一層のご健勝を祈ります。末筆ですが、荒谷さんには、いつもお手数を煩わして感謝の限りです。

68 長谷山 南

会費の納入遅延して申訳ありません。会報を読み、同窓諸兄弟のご活躍の近況を知ることができて嬉しく思います。一層のご健勝を祈ります。末筆ですが、荒谷さんには、いつもお手数を煩わして感謝の限りです。

会費納入遅くなりまして申訳ありません。世話役の皆様いつもご苦労様です。

72 大木 通宏

海外勤務になり送金が遅れて申し訳ありません。

72 藤野 威男

会報に決算書がついていたのは非常にいいと思います。私の個人的な近況についてはおかげ様で元気にやっています。

72 村手 正之

本年度年会費よろしくお願ひします。現在は国鉄本社に勤めております。

72 増田 欽一

「明治の森」高尾山のふもとに住んでいます。今年の高尾山の紅葉は大変みごとでした。新緑の高尾山も、またいいですよ。ぜひ、ハイキングに来て下さい。

73 遠山 敦子

遅くなりまして、申訳ありません。何年か分、まとめて払う方法はありますか。毎年分では、少々手間"に思われます。

会報は面白く拝見しています。いい先輩、同窓の方、をもったものだと言ひに存じます。

◎会費納入の件については検討中です。

81 鈴木 真男

事務局

事務局

事務局

事務局

事務局

事務局

事務局

事務局

事務局

事務局

事務局

事務局

事務局

事務局

事務局

事務局

事務局

事務局

事務局

事務局

同窓会開催等の御連絡を頂きながら、なかなか出席出来なく残念です。同期の方々のお名前を名簿で見つけては、在学時の想い出を採し出す様で申訳なく思っております。

94 福地 康紀
慈恵医大にて外科研修中です。

五九年度会費拠出者

(順不同・敬称略)

昭和六十年三月三十一日現在

期別

三五 畔柳安雄

三九 仲田正午

四一 鈴木篤、山田栄一、三宅泰雄

四二 坂野隆介、鈴木祐次郎

四三 田崎茂夫、井沢源治、三宅静雄

四四 中村満夫、外川誠、松下清夫

四五 柏木千秋、伊藤敬三、千葉保次、蝦原一郎

四六 磯塚倫三、篠原清、風入秀夫、河村喜久雄

四七 大村三郎、高山貞男、石川弘光、鍋田康、関口不二夫

四八 佐津川太郎

近藤希賢、太田正元、影山浩、奥山正、堀正典、佐々木英夫

四九 石割敏夫、篠原泰、嶋三郎、矢崎宗男、直原敏衛、荒井禎造

五〇 丸尾文治、緑川俊徳、仁科義郎、田中誠

五一 田中賢一、山本辰男、磯塚駿吉、下山富太郎、藤田正之、福永英武

五二 石野浩一、遠藤廉、西田豊馬、小川善次郎、弓削恒、勝又良男

五三 宗像醇、木宮高彦、野崎昌輔、手島正一、片桐鎮夫、細井庸司、渡辺治郎、磯野修、篠原範平、下山西四郎

五四 黒岩勇三、加藤和史、水上八郎、佐野修也、吉野悟郎、山本孫一

五五 原田昇左右、山田隆天、野喜久雄、加藤健三、森下恒彦、福住俊郎、島居義彦

五七 田中祐三、菅稔、原川久雄、岡田久男、牧知巳、広野暢之、後藤利彦、北村正

五八 小山昂之、海野進、向井晃源端一男、福知賢、福原元一、山口和夫、大村和夫、増田真一、本田豊

六〇 高田隆祐、君島康弘、渡辺博、服部昌夫、山路敬三、池上晴介、木村武、猿谷有弘、内藤敏夫

六一 宇都宮道和、君島敏男、富永辰典、高山秀男、佐野剛六二、六三 稲森茂、三枝弘之

六四、六五 長島健、馬場泰男、佐野旭、鈴木明郎、小林剛村上幸之

六六 小林五郎、増井和夫、早見幸雄、大塚修弘、曾根錦吾

六七 藤原朝則、小嶋清司、大村敏夫、浜田裕志、佐野辰美朝倉勇、島居滋夫、土屋博

六八 増田安国、田中映吾、稲川雅久、山岡進、手塚重明、戸塚惣雄

六九 若山光子、河口浩、大川庄治、佐藤忠行、市原卓、伊東良平、長谷山剛、杉山和子、植田勇夫、亀山恭一、小島哲彦、今井久、稲葉清針谷実、横山富士夫

七〇 松岡誠三郎、小佐野榮雄、白石通子、田中元、滝口登金子雅彦、野田卓男

七一 松原徳満、山田卓夫、富野寿、酒井力、小池啓治、加藤祐史、安藤竜男、石川宏清水安晃、友田勲、森川滝太郎、徳田武司、関本光宏遠藤吉隆、本間啓司、遠藤幸男、渡里彰、白井力、片山守彦、前田利男、野崎正矢部正和、伊藤勝、梅原孝

七二 允、谷口滋、山田勝司、桜井正之、丸山安彦、武井正和、松木茂夫、松島正明

七三 内藤博次、増田欽一、村手正之、藤野威男、大木通宏

七四 陰山勇一、木村克彦、今泉烈、加来義信、木村順策、杉浦敦、高木宣明、宮沢勇

七五 松下勝朗、宮崎禎雄、遠山敦子、永井敏夫、渡辺雅俊

八〇 小長谷康雄

八一 福世一巳、鈴木真男

八二 中村豊

八三 松井琢磨、森下匡人、福地康紀、鈴木文夫、栗田明、布野裕子、松本修一

八四 九四

やる気を引き出して
集団の活性化を実現する

経営コンサルタント

永 田 激 (50回)

〒235 横浜市磯子区森 1-15-1
第1磯子ハイツ 911号
TEL 045-752-2180

内科・外科・整形外科・皮膚科・放射線科
人間ドック

ねつ かん
熱 函 病 院

院長 小 坂 博 (67回)

住 所 熱海市春日町12-2

TEL 0557-83-3131

話題のスペース

(明治通りと大久保通りの交叉点)

レストラン・モア

小人数から30名様くらいまでクラス会等に最適です

土 屋 晃 康 (67回陸上)

TEL 03-208-2931・204-1251

東京都新宿区大久保 2-1-3

凸版印刷株式会社

東京都台東区台東1-5-1
TEL (833) 2111 (大代表)

セリ企業グループ

代表者 芹澤正憲 (43回)

佛銀座瀬里 (573) 4031~3
佛セリ・エンタープライズ (574) 7295~6
佛タカ・セリ (572) 6881~2
佛ニュー・セリ (571) 4588・6255
佛セリ・プレイング・マシン (462) 38-0571 (代)

株式会社 東電社

取締役社長 岩波信平 (42回)

東京都中央区日本橋2-1-21
TEL (271) 2701 (大代表)

本田技研工業株式会社

川島喜八郎 (52回)

東京都渋谷区神宮前6-27-8
TEL (499) 0111 (大代表)

川根銘茶

三保乃園山菅茶店

山菅章雄 (53回)
(村松正七)

東京都港区南青山1-20-6
TEL 03-403-5760

日本レーベル印刷株式会社

代表取締役 岩井平一郎 (57回)

本社 静岡市国吉田645
TEL 0542 (62) 1111 (代)
東京 中央区京橋1-2 越前屋ビル
TEL 03 (272) 4651 (代)

建築設計・監理

株式会社 奥野建築設計事務所

取締役会長 奥野孝 (53回)
取締役社長 奥野進 (56回)
取締役副社長 奥野広 (58回)

本社 東京都台東区寿2-5-12 加瀬ビル
TEL 03-842-6831 (代表)
静岡事務所 静岡市安東2-8-14
TEL 0542-46-9378

建築コンサルタント・設計施工業務

建築に関する御相談は御気軽に……

株式会社 大雄

取締役社長 奥野孝 (53回)

本社 東京都台東区東上野2-18-7 共同ビル10階
TEL 03-834-5331 (代表)

新東京印刷株式会社

代表取締役 梶原由三 (67回)

東京都中央区八丁堀2-1-7
神鋼ビル
TEL 03-553-8981 (代表)

総合広告代理店

株式会社 アドプロ

代表取締役 朝比奈正三 (67回)

東京都千代田区内神田3-4-5 岡崎ビル3階
TEL 03-254-2171 (代表)